

「都市景観の日」実行委員会会長賞

御堂筋（なんば駅前～長堀通）地区

所在地 大阪府大阪市

地区面積 約4.84ha

応募者 大阪市建設局、御堂筋協議会、大阪公立大学大学院 嘉名光市教授、大阪公立大学大学院 加我宏之教授、
大阪公立大学大学院 吉田長裕准教授、京都大学大学院 山口敬太准教授、
御堂筋道路空間再編に関わるコンサルタント一同

地区概要

御堂筋は1937年建設の梅田から難波を結ぶ延長約4.2km、幅員約44mの大阪のシンボルストリートである。2017年完成80周年を契機に公民で策定した「御堂筋将来ビジョン」に基づき、車中心から「世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ」と転換する一世ぶりの道路空間再編を目指し、まず側道の歩行者空間化を進めている。このたびなんば駅前から長堀通までの約1.1kmにおいて、沿道のエリアマネジメント団体、沿道町会、有識者等による公民連携プラットフォームである御堂筋協議会で議論を重ね、十数回にも及ぶ社会実験も行っており、各エリアの特性を反映した高質な空間を創出している。その際、大阪市指定文化財であるイチョウ並木を基調とし沿道建築物と調和した統一的で高質な空間形成を図る道路のデザインガイドラインを策定している。また施工時は有識者の専門的な助言を得ながら、何度もモックアップを現地で確認し素材やデザインを選定した。整備後、歩行者数の増加や回遊性の向上に加え、地価上昇等の効果も表れている。世界最先端の取り組みを進める海外都市との連携や情報発信、環境や防災に寄与する取り組みも進めており、今後も魅力的な人中心の空間づくりやブランド価値の向上を図っていく。

審査講評

御堂筋といえば、關一市長、大阪市第一次都市計画事業といった固有名詞とともに、日本近代都市計画の偉業として歴史に名を刻み、今日の都市資産となっている。その御堂筋をフルモール化するぞというニュースに接したときは心底驚いたが、大阪ならやるかもしれない、とも思った。それから6年、大きな一歩が形となった。長堀通との交差点から別個のとりくみとされるなんば駅前広場に接するまでの1.1km区間で、側道の自動車が失せ、沿道からシンボルの4列イチョウ並木までが歩行者と自転車のための空間となった。街路空間再配分の事例は各地に見られるものの、大都市の目抜き通りで交差街路も多いこの場所でそれを成し遂げ、多種多様な造形を万全に仕上げたことに敬服する。また従前から取り組んできた沿道建物の景観誘導の成果と相まって、都市景観を立派にしている。その価値を御堂筋ブランドにし、都市そのものを牽引する力を発揮させるための仕組みと活動が花開きつつある。この実績とエネルギーはめざすフルモール化、さらに他都市でのアクションを勇気づける規範として大いに称賛し、学びたい。（佐々木）



側道歩行者空間化整備後の御堂筋（長堀通～道頓堀川間）の様子



彩度を落とした色彩選定を行うことによる「人」が映える空間づくり



イルミネーション実施中の様子



利活用イベント実施時の様子。建物側に歩行者の通行空間、車道側に自転車の通行空間を確保し、中央のほこみち区域を活用。